

知的資産指標について

平成17年4月18日

知的財産政策室

企業価値創造のストーリーのイメージ

企業価値を高めるストーリー A. ~ G.

- A. 選択と集中を行って経営方針を立て、
- B. 投資をした結果として、
- C. その企業に固有の知的資産・強み / バリューチェーンが蓄積され、
- D. 業績が生まれ、
- E. それが持続性を持ち得る形で企業の中に定着し、
- F. 将来の不確実性にも対処しつつそれらが有効に活用され、
- G. その維持、発展のために、投資を行っている、
or 有効な資産の賞味期限が切れていないことにより、
将来収益(企業価値の向上)が期待できる。

ストーリーが机上の空論でないことを示す裏付け(例)

- | (定性的なもの) | (定量的なもの) |
|--------------------------|----------------------|
| A 過去のビジョン | |
| B 投資の方針 | B 投資等の実績 |
| C 強み等の説明 | C 知的資産関連指標 |
| | D 利益等これまでの業績 |
| E バリューチェーンの認識
とその持続性、 | |
| F リスク認識と
経営方針 | F リスク関連指標 |
| G 投資等の方針 | G 投資計画
及び知的資産関連指標 |

各企業の企業価値創造のストーリー(定性的) + 裏付け指標等
によって企業価値を説明する。

知的資産報告書の全体像(例)

<知的資産報告書の本体(例)>

～ 価値創造のストーリー～

ストーリーを裏付ける
知的資産指標()

<別添>

経営哲学

…年の起業以来、……「快適で充実した都市生活を実現する」という理念のもと、これを広く関係者に周知して企業イメージを確立するとともに(IRの回数)、従業員の行動指針とし(経営目標の浸透度)……。ユーザーのニーズに即応した製品開発のため、…年に開発に成功した技術を基盤として、周辺の技術開発を進め、時代の流れを汲み取り、または時代を先取りする形で(経営陣の平均年齢)事業を進めて参ります。

過去～現在

(経営方針)…都市化の進展、生活環境への要求水準の高まりを背景に、比較的狭い居住スペースで利用可能な の需要増大を見込み、……。低騒音で、手入れがしやすいといった特徴をもつ都市生活者向けの製品に重点を置き、そこでの競争優位を目指して事業を行って参りました。

(投資実績)…防音技術、軽量化技術と省スペース型のデザイン開発に集中的に投資(R & D集中度)し(××～××年 億円)、……。また、そのための材料開発を大学と共同で行いました(大学との連携プロジェクト 年 億円)(外部委託研究開発費)、……。

(知的資産・バリューチェーン)…××分野の技術の という基本特許を 年に取得。これをベースとした改良発明で周辺分野に権利を拡大(件)、また意匠権も取得(件)… の素材開発を進めてきました(研究者一人当R & D費)。これらの活動をマーケティングと直結させるべく、- -年に社内に横断的な組織としての「製品チーム」を発足させ、若手リーダーの下でニーズ即応の開発・販売を実現しています。このチームから具体的に×××や が生まれました。したがって、他社では製造できない、 を製品化し、様々なデザインにより製品のラインナップを充実させ、ユーザーのニーズに応えた結果、製品は市場の %を占め(品目別シェア加重平均)、…。近年のデフレ傾向の中でも製品単価を維持(客単価の変化)、消費者向けのPRにも××年から力を入れ企業イメージ向上を図っています(企業イメージ調査)。

(実績)この結果、売上げは××年- -円から 年- -円となり、…。経常利益は 年- -円から 年- -円となっています。しかし、昨年は…の影響により、経常利益が減少しました。

現在～今後

(ビジョン)韓国の競合メーカーの台頭により、経営環境は厳しくなっていますが、これまでの実績に基づき、顧客のニーズに的確に応える高い信頼性をより前面に出すことによって差別化の継続を図ります。具体的には、製品単価を維持しつつ引き続き国内市場を確保するべく、基本的な特許に立脚しながら、主力の を中心にさらなる製品開発を進めるとともにデザイン力や顧客へのPR、とりわけ当社が果たしている社会的責任を社長自らが各方面にPRし、社内にも徹底することによって、企業イメージの向上を図り、さらなる収益体質の強化を図ってまいります。

(投資計画)××年以来、総勢 人のデザイナーの採用や育成を行っており、これを今後 人に拡充し、研修も充実させ(一人当たり研修費：現在 円 5年後×円)ます。また企業イメージ向上のため、当社製品が美観を改善している点、さらに新製品の色彩・材質の選定においても人に優しい、環境に優しいものに特化し(環境関連投資××円)、この点を社外向けのPRの柱としてまいります。また、主力 に続く商品の新素材の開発は、2年後に終了(投資額 円)し、製品化段階に入る予定です。

(持続性)基本特許の有効期限は 年であり、周辺の特許は、平均して××年まで効力を持っています。また、当社製品は、購買層から高い評価を得ており、この数字は年々上昇する傾向にあります(企業イメージ調査、顧客満足度)。今後は、「製品チーム」への更なるインセンティブ付与のため、…のシステムを導入します。また、昨年から開始した中国の一部大都市への輸出を含め、期待される市場規模が拡大することが見込まれる(平均伸び率 %を予想)ことから、売上げも年 %の伸びが見込まれ、経常利益は×年に を予想しております。

知的資産指標

- ・IRの回数
- ・従業員満足度
- ・R & D集中度
- ・客単価
- ・顧客満足度
- ・知識の創造
- ・売上高研究開発費
- ・中途採用率
- ・新製品比率
- ・情報共有度
- ・内部統制の有効性
- ・訴訟リスク
- ・企業イメージ
- ……
- ……
- ……



知的資産の切り口と基本的指標

< 知的資産の種類 >

< バリューチェーンにおいて ポイントとなる視点 >

< 開示項目例 >

(縦軸)

(横軸)

知的資産

人的資産

組織構造資産

関係構造資産

(指標群)

(指標群)

(指標群)

(200~300種類)

絞込

経営哲学 (存在、周知、浸透)

従業員、投資家、顧客等への
経営哲学の浸透、リーダーシップ

選択と集中

製品・サービス、技術、顧客、市場等
の選択と集中の状況

交渉・説得力

川上、川下との交渉能力、説得力

知識の創造

イノベーション、スピードを含む
新しい価値創造の能力効率

チームワーク

組織(総合)力、
個々の能等の組織としての結合

リスク管理

リスクの認識・評価対応、管理、
公表等

社会との共生

地域・社会等への貢献による
好イメージの形成

- ・社長が社員に語る方法・日数
- ・社員の経営方針認知度
- ・子会社社長平均年齢
- ・IRとしての社長の生の声

- ・R & D集中度
- ・主要製品同業他社数加重平均
- ・品目別シェア加重平均
- ・市場の差別化
- ・従業員の評価・選別システム

- ・原材料市況変化に対する出荷価格の弾性値
(転嫁の状況)
- ・原材料市況変化に対する原価の弾性値(交渉力)
- ・売上高原価率
- ・顧客満足度(継続的取引割合)

- ・新陳代謝率(従業員平均年齢とその前年比)
- ・保有特許、研究開発成果の文献・他社特許申請等
における引用数
- ・研究者一人当R & D費
- ・従業員一人当研修費
- ・1番乗り商品の数
- ・権利化率
- ・社内連携
- ・社外連携(含人事)
- ・売上高対比R & D費比

- ・社内改善提案数
- ・従業員満足度
- ・転出比率
- ・インセンティブシステム
- ・機能横断的チーム

- ・体制・マニュアル
- ・リスク情報の公表実績・スピード
- ・取引先(川上・川下)の分散状況
- ・懸念中の訴訟における賠償請求額
- ・被買収リスク
- ・R & Dポートフォリオ

(時価総額と株主払い込資本額の比:PBR)

- ・SRI採用数
- ・地元採用比率
- ・環境関連投資
- ・企業イメージ調査
- ・就職したい企業ランキング
- ・社会的活動による表彰実績
- ・会社のサイトへのアクセス数